



実証実験場に造られた道路で横断歩道を渡る、ロボティックモビリティ「PiiMo」と自動搬送ロボット

## 2025年 大阪・関西万博 次世代都市交通システム実証実験

### 次世代都市交通システム構築をめざす モビリティの自動運転実証実験

大阪市高速電気軌道株式会社 (Osaka Metro) は、パナソニックグループなど9社と共同で、2025年大阪・関西万博会場の内外輸送に関する、自動運転車両を核とした次世代都市交通システムの実証実験を行った。ここでは、未来社会における次世代交通管制システムの構築や、新たな移動体験の事業性が検証された。パナソニックグループが提供したのは、歩行者と混在した環境下で移動する多様なモビリティと、その運行状況を一つのシステムで一元的に管理する遠隔管制システム。ロボティックモビリティ「PiiMo」は、障害物を

検知すると自動で減速・停止する機能や、先行機体に自動追従する機能を搭載。今回の実証実験では、遠隔監視・操作機能に対応した機体を先頭に配置することで、搭乗者あるいは遠隔から操作することにより、後続の機体が自動追従し、安全に効率良くグループの移動をサポートすることが確認された。また、自動搬送ロボットは遠隔システムからの操作に加え、周囲環境のセンシングにより人や障害物を認識し、安全に屋外・屋内を自動走行し、小型貨物などを搬送する。将来的には実証実験で得られたノウハウを、都市OS\*との連携に活用することで、大阪府が掲げる「いのち輝く未来社会」づくりに貢献することが期待されている。

\*都市に存在する膨大なデータを蓄積・分析するとともに、他の自治体や企業、研究機関などと連携するためのデータ連携基盤

### 2025年 大阪・関西万博 次世代都市交通システム実証実験

所在地 / 大阪市此花区舞洲  
 事業主 / 大阪市高速電気軌道株式会社  
 参加企業 / あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、株式会社NTTドコモ、株式会社大林組、関西電力株式会社、株式会社ダイヘン、凸版印刷株式会社、日本信号株式会社、パナソニックグループ、BOLDLY株式会社  
 実施期間 / 2022年3月～4月



ロボティックモビリティ「PiiMo」と自動搬送ロボット。背後左は自動運転バス、右は自動運転TAXI



自動運転バスへの乗車を  
ハンズフリーで行う顔認証システム



自動搬送ロボットへの荷物格納

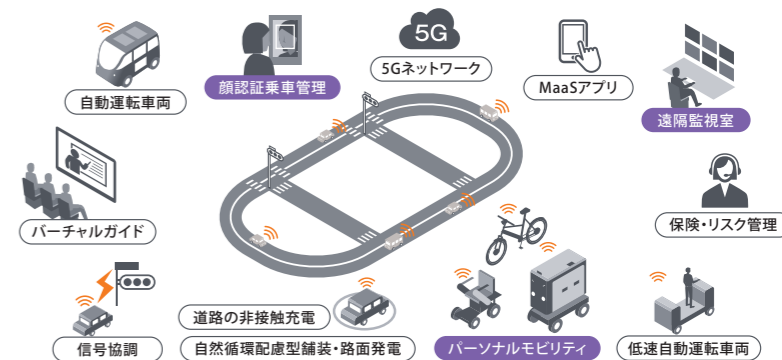


遠隔監視室



「PiiMo」と自動搬送ロボットの遠隔監視画面

### 実証実験の概要



### 主な提供設備

- ロボティックモビリティ「PiiMo」
- 遠隔管制システム「X-Area Remote」
- 自動搬送ロボット「X-Area Robo」
- 顔認証システム

